

# CONTENTS

---

ビジュアルヘルプ - ImageRotate.....	2
ImageRotate コマンドのヘルプ.....	2

# ビジュアルヘルプ – ImageRotate

## ImageRotate コマンドのヘルプ

**ImageRotate** [*flags*] *ImageMatrix*

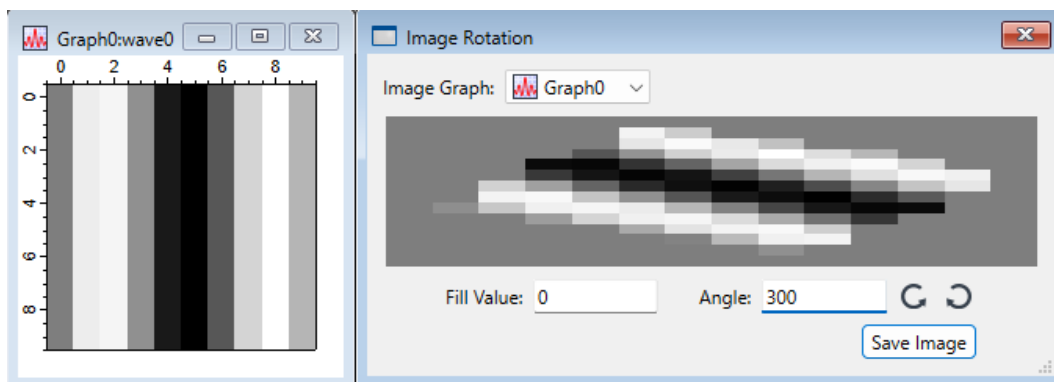
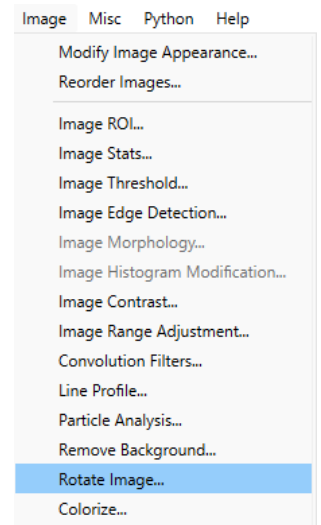
画像を角度（度）分時計回りに回転させます。  
/W オプションを指定した場合は反時計回りに回転します。

/O フラグが指定されていない限り、生成された画像はウェーブ  
M\_RotatedImage に保存されます。  
生成される画像のサイズは、回転角度によって異なります。

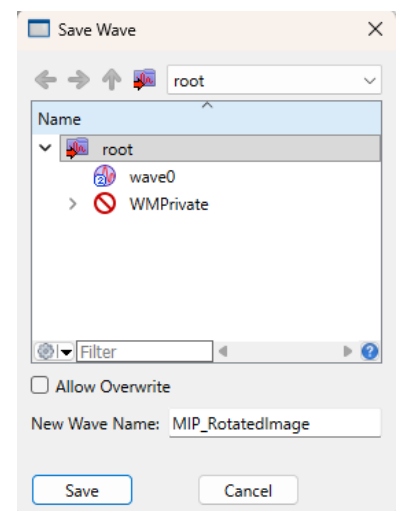
元の画像の表示範囲外のポイントに対応する画像の領域は、デフォルト  
値の 64、または /E フラグで指定された値に設定されます。

ImageRotate は、あらゆるデータ型の 2D と 3D ウェーブに適用でき  
ます。

メニュー Image→Rotate Image で操作ダイアログを表示できます。



Save Image ボタンを押すと、上書きの設定や新規ウェーブの名  
前の設定を行うことができます。



### フラグ

/A=angle

このフラグを使って、反時計回りの角度（度単位）を指定しま  
す。ちょうど 90 度の回転を行う場合は、代わりに /C または  
/W を使ってください。

/C	反時計回りに 90 度回転することを指定します。
/DEST=destW	このフラグを使って、回転された画像を含む出力ウェーブを指定します。デフォルトでは、ImageRotate は現在のデータフォルダー内の M_RotatedImage というウェーブに出力結果を保存します。  /DEST フラグは Igor Pro 10.0 で追加されました。
/E=val	このフラグを使って、元の画像の範囲外にあるピクセルの値を指定します。デフォルトでは、ピクセル値は 64 に設定されます。/E=(NaN) を指定し、データ型が char、short、または long の場合、このコマンドにより範囲外の値は 64 に設定されます。
/F	画像を 180 度回転させます。
/FREE	destW をフリーウェーブとして作成します。  /FREE は関数内でのみ使用可能で、かつ、宛先のウェーブ名が単純な名前またはウェーブ参照構造体のフィールドである場合に限り使用できます。  詳細は、ヘルプ Free Waves を参照してください。  /FREE フラグは Igor Pro 10.0 で追加されました。
/H	画像を水平方向に反転します。
/O	元の画像を回転させた画像で上書きします。
/Q	静音モード。このフラグを指定しない場合、このコマンドは履歴エリアに警告を出力します。
/RGBA=(R,G,B [,A])	元の画像が占める領域の外側にあるピクセルの RGB または RGBA 値を指定します。  このフラグは Igor Pro 7.0 で追加されました。
/S	ソース画像のウェーブスケールリングを使い、90 度の倍数となる回転角度において、画像内のオブジェクトのスケールや相対的な位置関係を維持します。
/V	画像を垂直方向に反転します。
/W	時計回りに 90 度回転することを指定します。
/Z	エラーを無視します。

#### 参照

ヘルプ Image Processing  
MatrixTranspose コマンド